未来の収穫祭2022

丸亀市

HOT サンダルプロジェクト実行委員会

はじめに

ＨＯＴサンダルプロジェクトは、香川県丸亀市内の離島に、美術を専攻する学生が滞在し、制作活動に取り組むことで、アートによる島の活性化、若手芸術家の制作活動支援および丸亀市の文化芸術振興の推進を目的として、2012年から実施しています。2020年は新型コロナウイルス感染症のため中止し、2021年は学生が島に滞在することは叶いませんでしたが、オンラインを活用したトークイベントとアートコンテストを実施しました。

2022年は依然としてコロナ禍の収束が見えない中ではありましたが、感染症の対策を講じながら、3年ぶりに島に学生を受け入れて実施することができました。6名の学生が、島の皆様の温かいまなざしのもと、美しい自然やたくましく生きる生物の鼓動を感じながら作品を創ることができ、実りあるプロジェクトになりました。

「また島に帰ってきたい!」学生たちの新たな「故郷」への思いを作品から感じていただければ幸いです。

丸亀市・HOT サンダルプロジェクト実行委員会

HOT サンダルプロジェクトに寄せて

　この夏、HOTサンダルプロジェクトは、3年ぶりの開催となりました。
学生の募集は少人数とし、島での制作日数も短縮した取り組みとしましたが、無事に11年目を開催することができました。
　開催にあたっては本プロジェクトの趣旨を深く理解し、応援してくださった各大学の先生方、いつも温かく学生を迎え、心から見守ってくださる島の皆様、その他準備のためのご苦労をいただき、お世話になりました皆様へ改めて心より御礼申し上げます。
　私は直前まで講評会への参加を予定していましたが、コロナ禍が急拡大し断念いたしました。しかし島に移住し現在創作活動を続けている、3人のHOTサンダルプロジェクトの元参加者の方々、斉藤茉莉さん、高橋周平さん、田嶋里菜さんが発表会に参加し、学生のプレゼンテーションを聞き、素晴らしい批評をしてくださいました。その折の録画を実行委員会より送っていただきましたが、島での制作風景、笑顔、輝く生活の姿、離島ならではの時間の移ろいゆく様、島を包み込む色彩の魅力、自然と対峙し発見した形、感動と発見の喜びが融合し、充実した時間の積み上げが、大学を超え学年を超えて一つになり伝わってきました。本プロジェクトの目指す精神は今年も見事に受け継がれました。皆様へ心から御礼申し上げますとともに、これからもHOTサンダルプロジェクトをよろしくお願いいたします。

井上耐子（日本画家 / 武蔵野美術大学名誉教授）

HOTサンダルプロジェクトに寄せて

今年も続いているコロナ禍の中で、HOTサンダルプロジェクトが少人数ながらも開催されて良かったことは、入島から卒島するまでの学生たちの笑顔を見れば分かります。制約のある日常から解き放たれて、島での暮らしに何を感じ取ったでしょうか。

絵を描く際には様々なきっかけが有りますが、石禾さんは強烈な光の中に色彩を感じ取り、海に関わる島民の方や自然物との出会いの中で、生命感を感じます。高木さんは、毎日の時間の移り変わりを感じながら光に満ちた風景を描いています。丸山さんは、都会での生活から大自然の中に飛び込むことで、日々の暮らしを捉え直すきっかけになったでしょうか。神作さんは、自然と共に生きることへの愛情が伝わってきます。竹原さんは、島での光と出会いの印象を大切にした作品です。戸田さんは、激しい太陽の光と海の豊かさを大切にしたい想いが伝わってきます。

作者の心情は、作品を通して感じ取ることができます。島での暮らしの中で感じ取った経験は、自然の美しさに対する感動だけではなく、島民の方や参加学生同士の刺激もあったのではないでしょうか。離島での異文化体験が今後どの様に日常の生活に影響を及ぼすか楽しみにしています。

間島秀徳（武蔵野美術大学 教授）

私がHOTサンダルプロジェクトに講師の立場で参加したのは2014年でした。私のワークショップは予定の半分が台風直撃により中止となり、雨男ぶりを発揮する結果となってしまいました。当時の参加者は26名。島ごとに分かれて共同生活をしている学生達が、日焼けした姿でワークショップに現れた時、学生達の成長を感じ、驚きと敬意を抱いた事を思い出します。

今回、女子美術大学からは学部１年生1名の参加でした。全体で6名での再始動ということで、活気が得られるのか気にかけていましたが、夏休み明けにキャンパスで再会した彼女の笑顔と充実した振舞いを目にし、他大学の先輩学生との交流を通じて多くのことを学ぶことができたのだと実感しました。

規模の大小は、目に見える些細な違いでしかなく、何より空と海、人々との触れ合いは、相変わらず失われていなかったことが、学生達に多くの喜びをもたらしたのだと感じています。

宮島弘道（女子美術大学 教授）

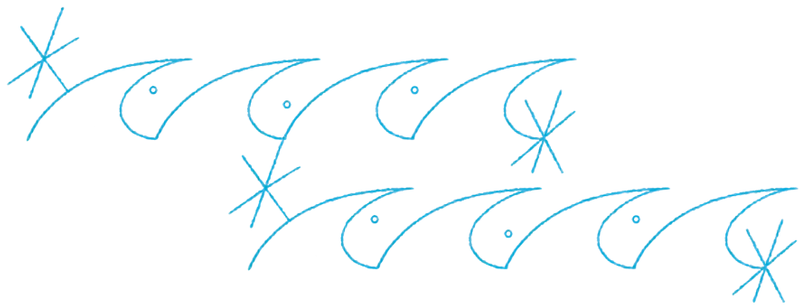
コロナ禍の社会情勢の中で、プロジェクトを推進される関係者の皆様には、実施場所が離島という環境であるだけに、決断と実行の準備で計り知れないご苦労があったことと推察いたします。お陰様で今夏は武蔵野美術大学、女子美術大学、東北芸術工科大学の3校から6人の学生が参加することができました。

プロジェクトに参加した若者たちは、これまで培われてきたプロジェクトの成果に魅了されて、「自分も美しい塩飽諸島に行って、制作したい」という願望が募っていたことでしょう。都市とは両極とも言える離島の暮らしと自然、彼らは歓喜と興奮を持って、時にはカルチャーショックもありながら、制作し暮らしました。時折SNSを通して送られてくる彼らの様子からは、島での充実した日々を推察することは容易でした。

島の人々との交流からもたらされた成果が、それぞれの作品に昇華されております。本土に蔓延するコロナの鬱屈した空気感を吹き飛ばす勢いで、皆がそれぞれに生き生きと表現しております。光に溢れた島の光景に、若者たちは深淵で新鮮な発見を成し遂げたように思います。

この一夏の体験と思考は、必ずや彼らの中に創造の果実として現れることでしょう。アートの力を信じて支えてくださる島民の皆様と、丸亀市の関係者の方々に深謝申し上げます。今後も更なるプロジェクトの発展と継続を期待いたします。

末永敏明（東北芸術工科大学 教授）



広島 Hiroshima

武蔵野美術大学

石禾 実紅 Miku Isawa

左：「覗いてみると」480×300　中央左：「幸」480×300　雲肌麻紙、岩絵具、青木石の粉

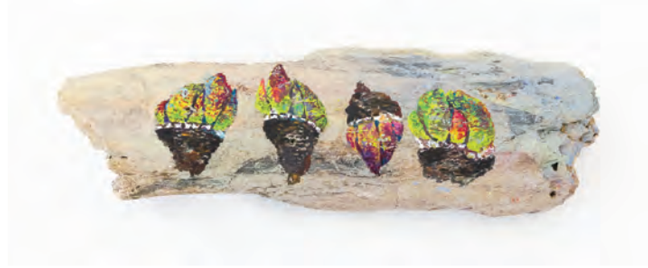
中央右上：「絵日記：広島」330×240　中央右下：「涼風」530×330　アクリル、画用紙　右：「大漁」1225×390　雲肌麻紙、岩絵具、青木石の粉

女子美術大学

高木 沙羅 Sara Takaki

「ほのぼのと、崖」652×530　雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、青木石の粉

半島 Teshima

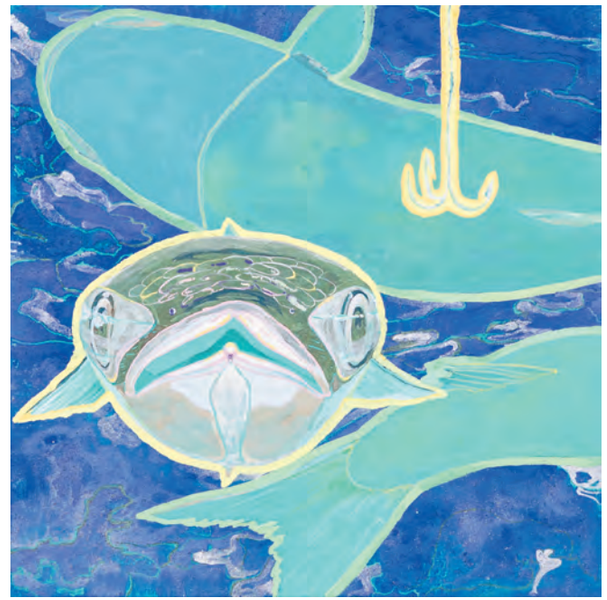


東北芸術工科大学

神作 茉弥 Maya Kansaku

左上：「向かうさき」273×220　左下：「追憶」227×158　中央左：「夕暮れ」230×60　水干絵具、岩絵具、墨、胡粉、　膠、流木（「夕暮れ」のみ）

中央右：「ぽっこりおなか」250×50　右上：「過ごした時間」230×90　右下：「あヽ愉快」70×70　流木、アクリル

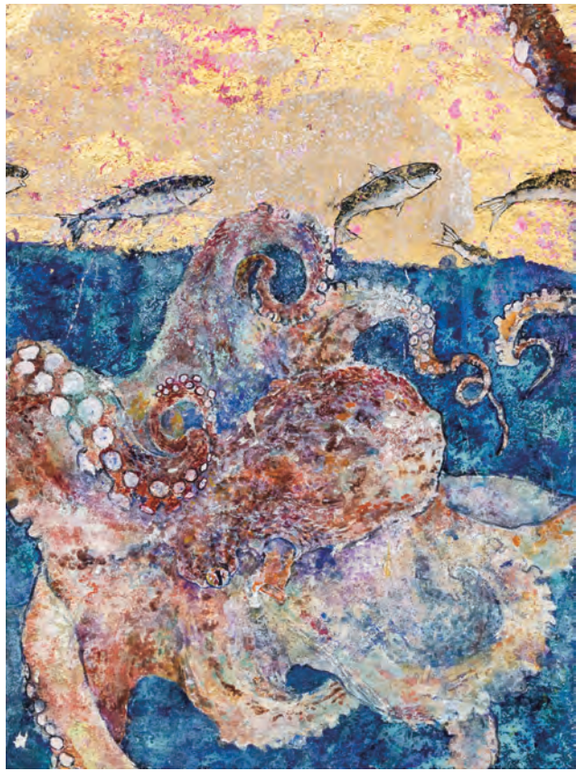


東北芸術工科大学

竹原 雅 Miyabi Takehara

左：「島のいろ、色々。」410×320　和紙、岩絵具

中央：「つり」330×330　和紙、岩絵具　右：「タマムシ」122×45　流木、岩絵具、タマムシ



東北芸術工科大学

戸田 創史 Soushi Toda

左：「いつまでも、海がこうでありますように。」530×410　石膏地、岩絵具、金箔、墨 中央左：「タケノコメバル　と手島の光」333×333　キャンバス、岩絵具、墨、胡粉、クラッキング、金箔等

中央右：「キスのすみか」227×158　流木、墨、岩絵具、銀箔、パネル、ひも 右：「大倉さんのソテツ」410×242　和紙、　銀箔、墨

武蔵野美術大学

丸山 大樹 Taijyu Maruyama

左：「積みかさなり、カニかさなり」455×380 中央：「＝まち＝焦がれる」240×190 右：「いただきます。」 410×318 岩絵具、マチエール

発表会風景（広島コミュニティセンター）

展示風景（丸亀市生涯学習センター）

おわりに

　コロナ禍で世界中の人々の行動に制限がかかり、生きづらい世の中になりました。今まで以上に人とふれあう事が難しくなり、どこに刺激を求め、どこに癒しを求めればよいのでしょうか。
　そのような状況でHOTサンダルプロジェクトは少人数でこぢんまりとした開催ではありましたが、島の方々、参加した学生達に少しでも刺激を与え心の支えとなったのではないでしょうか。それは作品を観ていただければ納得できると思います。
　島の過疎化や高齢化が進む中、年々島の方々の受け入れ態勢も厳しくなっています。どのようにHOTサンダルプロジェクトを続けていくかを検討すべき時期になってまいりました。今回の開催は今後のHOTサンダルプロジェクトの進むべき道に光を当ててくれたのではないかと思います。
　今一度、島の皆様方と話し合い、島の活性化、若手芸術家の支援がスムーズに行えるよう、新しいHOTサンダルプロジェクトを導いていきたいと思います。
　最後になりましたが、学生さん達が元気に制作できたのは、暖かく受け入れて下さった島の皆様方、各大学の先生方、移住している島っ子さん達、そして実行委員会の皆様方、文化課のスタッフのお陰だと深く感謝申し上げます。

HOTサンダルプロジェクト実行委員会会長　正木かつみ

HOT サンダルプロジェクト 2022 参加者

※各島滞在者 50 音順

広島

・石禾 実紅

・高木 沙羅

手島

・神作 茉弥

・竹原 雅

・戸田 創史

・丸山 大樹

2022 年　8 月 10 日 入島式
8 月 24 日 作品発表会
8 月 25 日 卒島式
8 月 27 日～ 9 月 4 日
作品展覧会

未来の収穫祭 2022

HOT サンダルプロジェクト作品展覧会 ～ 未来の収穫祭 2022 ～作品図録
制作発行：丸亀市・HOT サンダルプロジェクト実行委員会
illustration&design：SAAYA　MASAKI
撮影：株式会社　夢工房
印刷：有限会社細谷印刷所
HOT サンダルプロジェクト HP：http://www.hot-sandal.com/